



福岡市育成会だより

第152号

発行所 社会福祉法人 福岡市手をつなぐ育成会

〒810-0062 福岡市中央区荒戸3丁目3-39 福岡市市民福祉プラザ4階
TEL.092-713-1480

この会報は、
共同募金の配分を
受けて作成した
ものです。



ありがとうございました

豊かな暮らしを支援する

理事長 向井公太

今号のテーマは「豊かな暮らしを支援する」です。しかし、このテーマをいざ考

え始めると、大変難しいテーマです。

まず「豊かな」とはどのような状態を指すのか。人によって、年代によって、ま

た時代によって、地域・国によってその概念は違うのではないか。さらにいえば、

同じ人においても、いろんな場面で「豊かな」が異なってくるのではないか。要

は何をもつて、どのような状態をもつて「豊かな」と言うのか。さらに、「暮らし」とはどのような内容を指すのか。日々送

る日常の中にあるものを指すのか、もつと永く人の一生と表裏するものを指す

のか。最終的には、以上のように固定できぬものを「支援する」とは、時間軸と

して、日々において行動する内容をいうのか、少し長い期間で考える内容をいうのか、はたまたもつと永くその人の一生

を考える内容を指すのか。

以上のようなことを考え始めると、こ

のテーマについて整理し、書く能力が私にはないと思いました。

しかし、身の回りを振り返ると、いくつか思い当たる言葉がありました。順序

にかまわずに書くと、まず、障がいのあ

る本人、次に家族、さらにその周囲にいる関係者など。そして何よりもマライ

ゼーション、障害者権利条約(以下、条約

と言います)、そして最近よく耳にする

意思決定支援です。

私は、障害者権利条約の中で頻繁に使

用されている「他の者との平等を基礎と

して、これこそがノーマライゼーショ

ンの方向ではないかと思っています。逆

に言うと、豊かでない暮らしとは、「他の

者との平等を基礎として」いない状況で

あり、同じ時代の同じ社会で生きる同じ

年代の者と生活を営み、社会的経験を積

む機会が与えられないなどが、社会の仕

組みにより保障されないことではない

かと思い当たりました。

そこを何とかするのが私たち福祉事

業に従事する者の役割、いや私たちだけ

でなく國・國民の役割ではないかと思っ

ています。今までそれをすべて親が担

つてきた、特に母親が担つて来たと思いま

す。母親は障がいをもつた子の世話を

することが自分の終生の役割だと思い、社会に対する異議申し立てなど考え方にはなかつたことでしょう。ということは、少なくとも障がいをもつた人がいる家族のノーマライゼーションということは意識されてこなかつたということでしょうか。

二つ目は、きょうだい、祖父母、叔父叔母や地域等の理解を得られる支援のあり方、啓発を考える必要があります。三つ目は、今盛んに言われる意思決定支援に関わることですが、障がい者のライフサイクルに継続的に関わり、本人の生活や本人に対するケアにするためには引き継ぎを繋げつつ、一貫した支援が必要です。そのための体制の整備が必要あります。

障がいのない人がその人のライフサイクルを自ら考え組み立て生きていくように、障がいのある人がそのライフサイクルを組み立てられるようにする社会の仕組み、あり方が必要であるとい

ます。

そのための社会の進歩は、障がいのない人も住みやすい社会の進歩だと思います。

全国障がい者スポーツ大会に 参加して思うこと

育成会清掃事業部 梶 仁

去る10月22日から3日間、岩手県で開催された第16回全国障がい者スポーツ大会(東日本大震災復興の架け橋)希望郷岩手大会にフライングディスク競技(以下、FD)の監督として参加しました。

個人・団体の選手38名、役員23名の総合計61名、FDは監督1名、コーチ1名、選手5名(身体障がい3名、知的2名)での参加でした。どういう行程か、知らない人も多いと思いますので書いてみたいと思います。

10月20日(木)から25日(火)までの5泊6日の長い行程です。

【一日目】移動

福岡空港より仙台空港まで移動します。仙台空港からは陸上競技とほ

かの競技に分かれバスでFDの宿舎に向かいいます。(会場が離れている為、宿舎も分散します)宿舎に着いて福岡市選手団付きの岩手の役員さんと顔合わせ、選手の荷物を一緒に解いて必要なものを確認、宿泊施設の使い方、浴室の利用方法などを確認、声かけをします。そして疲れを残さないよう早めに就寝します。

【二日目】公開練習

選手は本番さながらに練習をしま

す。監督は監督会議へ申し合わせ事項の確認をします。

【三日目】アキュラシー競技

選手5名(1名銀メダル獲得)

緊張の中、精一杯頑張つてくれました。普段、緊張する場面が少ない人にとっては想像を絶する緊張でしょう。息づかいが聞こえてくる程、ドキドキ感が伝わってきます。監督、コーチ、選手も一投一投に拍手、良し!頑張れ!!と応援にも力が入ります。

FDの表彰式では、順位に関わらず全員万歳三唱で皆の健闘を讃え合います。満面の笑みの人、悔しくてたまらない人々前に立つのが恥ずかしい人、いろいろな表情が見られます。

年々、競技レベルが高くなっています。また、銀メダル一個と全員がメダルを手にすることはできませんでしたが、一投一投に集中し頑張つてくれたと思います。

【四日目】ディスタンス競技一日目

選手4名(1名銅メダル獲得)

福岡市選手団は福岡県、北九州市、佐賀県、宮崎県と同じ控えテントでした。朝一番、みんなで「九州はひとつ」の掛け声で頑張ろうと気合を入れました。

【五日目】ディスタンス競技二日目

閉会式



が行われる北上陸上競技場までバスで移動。他競技の選手団も合流し福岡市選手団全員が集結しました。閉会式後には、AKBのミニコンサートもありましたが、強風、小雨と寒さでゆっくり音楽を楽しむ余裕はありませんでした。式典終了後は、FDの宿舎までバスで移動し、翌日帰るため、荷物の整理等声かけや一緒に手伝いをしました。

【六日目】帰路

宿舎に別れを告げ仙台空港へ、選手団が合流し全員で空路福岡へ。福岡空港で解団式が行われ、ひさしぶりに家族と再会します。大きな荷物を抱えてみなさん家路に向かいます。

各競技の監督、コーチ、選手の皆さんお疲れ様でした。以上が大会の大

まかな流れです。
大会後の選手の家族から。

①引っこみ思案だった子が積極的に

になつた。

②言われてなかなか動かなかつた子が返事をよくするようになった。
③自信を持つて行動するようになつた。

等の声を聞き、一緒に同行してよかつたなとうれしく思います。出発時には、目上の人に対しても敬語が使えた子が、年齢の離れた人と一緒に行動する中できちんととした言葉遣いになる等、嬉しい場面がたくさんありました。沢山の人にこの経験をしてもらいたいと思います。

全国大会に行くためには選考会に出ないといけません。その選考会が、毎年秋に開催される福岡市の障がい者スポーツ大会で、今年で21回目になりました。

私も、FD競技の運営に長く関わらせてもらっていますが、嬉しそうに参加する選手、久しぶりに会う顔の選手に声をかけてもらうと元気になります。育成会の人たちもたくさん参加してくれています。願わくば、一緒に活動してくれる仲間(職員)が一人でも二人でも増えてくれればと思います。育成会から選手も出てほしいですね。

2月26日(日)に柏屋郡宇美町の陸

上競技場で九州ブロックのFD大会が行われます。自分の実力を発揮できる絶好の大会です。一人でも多くの人に参加してほしいと思います。いつでも、どこでも、誰とでも楽しめます。



親子レクリエーション

平成28年度 在宅心身障がい児親子レクリエーション

法人事務局 藤野 江里

去る10月30日に平成28年度在宅心身障がい児親子レクリエーションを実施しました。この事業は、今年で第41回を迎える福岡市から委託を受けて行っている催しです。市内の高校生以下の中学生を対象に、親子でレクリエーションの場と機会を提供し野外活動の喜びや交流を図るものであります。

前日の悪天候により、開催も心配されましたが、交流を楽しみにする利用者の願いが叶い、澄み切った青空の下、たくさんの笑顔があふれる交流となりました。

当日は、池田良子市議会議員をはじめ、理事の方々にも御参加頂き、日頃の利用者の様子を見て頂く、良い機会になつたのではないかと思います。

今回の内容は、利用者の思いや声を大切にしたいと考え、進めて参りました。

共同事業について報告

今後も、皆さまに楽しい一日をごしていただけるよう、さまざまな企画を考えたいと思っています。

60名、引率スタッフ10名がバス5台で出掛けました。当日は好天に恵まれ、どんぐり村の散策や食事を楽しめたり、当日開催されたハロウインイベントを楽しめたりと、思

い思いに秋晴れの一日を満喫されました。

今年は、佐賀県三瀬村にある「三瀬どんぐり村」に、参加された親子約1

60名、引率スタッフ10名がバス5台で出掛けました。当日は好天に恵まれ、どんぐり村の散策や食事を楽しめたり、当日開催されたハロウインイベントを楽しめたりと、思

い思いに秋晴れの一日を満喫されました。短い時間でしたが、楽しい時を過ごすことができました。

設の利用者・関係職員等にアンケートを実施し、皆さんからの御意見を伺いました。次年度に向か、皆さんから御意見を反映できるように、引き取り組んで参りたいと思います。

各施設の利用者の方々・職員が交じり合って、ボール運びゲームを行ない、ダンスができたのは良かつたと思います。大変盛り上がっていました。レクリエーション終了後には、「もう1回ダンスがしたかった。」「ボール送りゲームが楽しかった。」「もつとやりたかった。」との感想も聞かれが植物園にて開催されました。

ひまわりパーク六本松 入江 美由紀
11月11日(金)第3回育成会共同事業「植物園で楽しく交流しましよう」

ひまわりパーク六本松 大濱 浩文
11月11日(木)から6日(火)

まで、「第9回福岡市障がい児・者美術展」が福岡アジア美術館で開催されました。手をつなぐ育成会は、ひまわりパーク六本松を中心にして、この美術展の実行委員として役割を担っています。

平成28年度 第9回福岡市障がい児・者美術展について

ひまわりパーク六本松 大濱 浩文



美術展の作品応募数は年々増加しております。今年度は小中学生の部、一般の部合わせて、絵画239点、書道53点、陶芸34点、写真20点、フリーリー174点の合計520点と、前年度を上回る数の応募をいただきました。また美術展の来場者数も延べ1,404人と昨年同様に多くの市民の皆さまにご来場いただき、作品に対する感想や作者への励ましを添えた「来場者投票」が行われました。どの作品も、作品から受ける感動や美術

品として高い芸術性が来場者に高い評価を受けていました。

市民投票及び審査員から選ばれた「入賞作品」は、表彰式を平成29年2月26日(日)に福岡市市民福祉プラザの「ふくふくホール」で開催し、翌日の2月27日(月)から3月5日まで新天町のギャラリー風で「第9回福岡市障がい児・者美術展入賞作品展」として開催します。表彰式をはじめ入賞作品展示会にも皆さまにぜひご来場頂きたいと願っています。

平成29年度も、福岡アジア美術館での開催を予定しております。また育成会も引き続き実行委員を務めますので、皆さまのより一層のご支援とご協力を賜りますようよろしくお願いします。

障がい者週間記念の集いについて

事務局長 堀 浩一郎

平成28年12月4日(日)福岡市役所西側ふれあい広場にて「平成28年度障がい者週間記念の集い」が開催されました。今年もWE LOVE天神協議会主催の「天神クリスマスマーケット」との合同開催で行われました。当時は生憎の雨模様でしたが、それでも約4,400名の来場者がおりました。式典・ステージイベントは



急速、市役所内1階の多目的スペースで実施されました。特に、ステージイベントでは、リオパラリンピックのボッチャで銀メダルを獲得した木谷隆行氏のトークショードを行いました。リオでの体験や試合の様子を語っていました。谷隆行氏のトーキングセッションは、参加された方は興味深く聞き言っていました。続いて、児童・生徒による作文発表では、市内の小学校、特別支援学校の生徒による作文発表会が行われ、木谷氏より一人ひとりコメントをいただきました。

午後より、障がい者団体紹介と各事業所のステージイベント等、またボッチャ体験会も開催され、木谷氏のプレーに大いに盛り上がりました。今年は雨の中の障がい者記念の集いでしたが、会場は熱気にあふれ有意義な集いであったと思います。

魚屋さんは「誰に対しても分け隔てなく挨拶をする姿を尊敬しています」と利用者さんを慕い、大将、と呼ぶのだとか。そのやり取りには何の隔たりもなく、ごく自然で、とても和やか。気が付けば魚屋さんだけではなく、八百屋さんやレジのスタッフ、そこへ来ていた他の飲食店の店主とも笑顔で言葉を交わし、同じ関係が出来上がっていました。

カフェ・サンフラワーは飲食店という機能上、ひまわり園の就労班の中でも様々なスキルを磨くことが出来、社会との接点が多い班だと思い

ます。

美味しい物を作る、作つたものをお客様のもとに運び、その頑張りの対価が代金と「おいしかった」という言葉でダイレクトに受け取ることができる、働くことへの意識ややり甲斐を培うには絶好の場だと思います。

また、接客や調理の技術の習得は勿論、買い出しの場での品物の選び方(賞味期限の見方、食材の良し悪しの見分け方・値段の比較の方法など)を体験しながら、生活に必要なスキルを身に着けられる事はここで働く人の特権ではないでしょうか。

古賀 久美子
ひまわり園

「久しぶり！元気？」
「おお、大将、おはよう！」

このやり取りは、利用者さんと魚屋さんの、業務用スーパーでのやり取り。私がカフェ・サンフラワーに配置されてもうすぐ一年。このやり取りは何度見ても「私達が目指すものだ」と思うのです。

魚屋さんは「誰に対しても分け隔てなく挨拶をする姿を尊敬しています」と利用者さんを慕い、大将、と呼ぶのだとか。そのやり取りには何の隔たりもなく、ごく自然で、とても和やか。気が付けば魚屋さんだけではなく、八百屋さんやレジのスタッフ、そこへ来ていた他の飲食店の店主とも笑顔で言葉を交わし、同じ関係が出来上がっていました。

こういった機会をもつと増やしていくことが、ノーマライゼーションを改めて声高に言う必要もなく、生まれた地域で暮らすことが当たり前になり、延いては障がいやそれぞれの個性を理解し合う社会へと繋がっています。





福岡ひまわりの里

石井 美紀



福岡ひまわりの里は、「作業する場所」でもあり、「余暇を楽しむ場所」でもあります。いろいろな顔があるこの場所で、いかにメリハリがある生活を提供するか、どのように豊かな暮らしを支援するか、利用者一人ひとりの意思決定をいかに現実のものにしていくか等々、日々利用者を主体とした支援のあり方を考えています。

その中のひとつを紹介します。福岡ひまわりの里は能古島にあり、アーランドパークがあります。年間を通していろんな花が咲き、観光客も多い自然豊かな場所です。そのアーランドパークに時折ドライブも兼ねて出かけます。外出したい、お出かけ

所」もあり、「生活する場所」でもあります。いろいろな顔があるこの場所で、いかにメリハリがある生活を提供するか、利用者一人ひとりの意思決定をいかに現実のものにしていくか等々、日々利用者を主体とした支援のあり方を考えています。

知り、本人にとって何が必要かを導き出し、情報提供する。こうした支援の中、「選択する・自己決定する」場面が広がればと考えています。

ひまわりパーク六本松

山中 理恵

ひまわりパーク六本松の事業の柱の一つはアートです。今まで数々の展覧会に出品し、利用者のみなさん

は観客や家族に褒められることを通して自分の存在意義を確かめる事が出来たように思います。また、自分で描いた絵がアートグッズとなつて店頭に並ぶ喜びも味わいました。そして何よりも人の財産を得ることが出来ているように思います。「こんな素敵な絵を描く彼らのいる場所を訪れたい。何か自分に役立つことはないだろうか。」というお声を数多く頂いています。画材などの寄付を頂いたり、お仕事を頂いたり、余暇支援のボランティアに入つて頂いたり色々な方法でお手伝いを頂いています。

ともすれば、利用者のみなさんは家

ひまわりパークつぼみ

成富 匠



利用者の方の日中活動は、主に生産活動(軽作業や清掃作業など)です。生産活動での私たちの作業支援は、利用者の給与のための支援だけではなく、利用者と社会をつなぐため、社会の役に立つてると利用者が考える

ことができるための支援でもあると思いつながら支援しております。

また、作業支援だけでなく、余暇活

族と職員のみの狭い人間関係に完結してしまいがちです。たくさんの素敵なか出会いがもたらす喜びは人生に豊かな彩を添えます。アートを人と人を繋ぐ有効なツールとして活用し、利用者のみなさんも職員も共にワクワク出来る出会いを作つていきたいと考えています。

豊かな生活とは、人それぞれ考え方は、今的生活が楽しい」と言えることではないかと思います。そのためにも多くの情報や機会を提供することできつかけをつくり、つなげていく。それが利用者の豊かな生活を支援するということになつていいのではないかと思います。

ひまわりパーク上牟田

島田 典子

これまで上牟田では、休日余暇支援などで、障がい者スポーツセンターからの派遣講師による軽運動、博多フレンドホームの講師、スタッフによるお菓子作りや工作教室を行つてきました。また、ボウリングやカラオケに出かけたり、事業所で鍋パーティーやレクリエーション、紙粘土や手芸などの創作活動を行つたりしてきました。毎年、県外へバスハイクにも出かけています。今年はバスハイクでは事前に利用者に意見を聞いた上

で内容を決定しました。また、公共交通機関を利用して、博多フレンドホームの秋祭りに出かけたり、利用者全員でアジア美術館へ障がい者美術展を見に行ったりしました。外出先での利用者さんは事業所とは違った生き生きとした表情を見せっていました。また、「楽しかった」という感想が聞かれました。

外出支援は、私たち支援者にとても利用者さんそれぞれの特性を知り、支援の方法を学ぶ良い機会になっています。また、地域の方々に少しでも利用者さんのことを知っていただけたら、と毎週事業所単独で行っている地域清掃の他、今年は町内一斉の地域清掃に初めて利用者さんも参加させていただきました。

ライフサポート てをつなぐ

畠田 和行



人が幸せと感じる中で、「人とのつながり」が何よりも大切な要素であると聞いたことがあります。家庭、あるいはグループホームと事業所の往復だけでは、新たな人と出会う機会はなかなかありません。

今後さらに、さまざまな活動を提供するとともに、地域社会に出かけしていく機会を増やしていきたいと考えています。たくさんの経験を通して、利用者が過去に身をつけた今は眠つていてる力を再度呼び起こし、自分の力を楽しみを見つけるように支援を

していきたいと思います。

何をもつて「豊かな暮らし」という

寄付のお礼	
(平成28年9月～平成28年12月)	
◎ひまわり園へ	
畠田 和行	福岡大学附属若葉高等学校 様
井上 幸次 様	ひまわり園保護者会 様
◎福岡ひまわりの里へ	田中 春子 様
井上 紗代 様	◎早良ひまわりハウスへ
ありがとうございます。	大切に使わせていただきます。

おめでとうございます。

かは人それぞれの考え方があると思いますが、その人なりの日常生活ができるよう支援し、その支援を継続することで豊かな暮らしへ繋げていきたいと考えています。

また、ご自宅内だけでなく移動支援を利用した外出でいろんな体験をしてもらい、余暇の充実、社会参加の機会も増えています。

さらに言えば、5年後10年後の事を見据えた支援も必要になつてくると思います。制度や法律の見直しが今後実施されますので、私たち現場の職員は研修や講習に参加し支援技術や知識の向上に努めていきます。

平成28年度 福岡市福祉のまちづくり 推進大会

平成28年11月9日 福岡市民会館

市長表彰

富山 博光 氏
梶原 千恵子 氏
藤吉 亨 氏
大石 多江子 氏
古城 ゆかり 氏

市長感謝状

水城 淳一郎 氏
島崎 ひろみ 氏
中村 健二 氏
藤井 隆生 氏
高橋 幸太郎 氏
山村 嶽子 氏
石橋 和巳 氏
牛丸 健児 氏
保野 謙太郎 氏
吉川 富孝史 氏
古川 直美 氏
中村 健二 氏
吉川 富孝史 氏
古川 直美 氏

市社協会長表彰

市社協会長表彰

グループホーム早良ひまわりハウスの経過をご報告いたします。



早良ひまわりハウス開設準備室

昨年11月に着工しましたハウ
ス1は、3月下旬の完成を目指
し、順調に工事が進んでいます。
ハウス2は入札が不調になつた
後、昨年暮れにようやく工事金
額の折り合いがつき、今月着工、
5月中旬完成と出遅れました。
ハウス1は各部屋の形がわかる
ようになりました。

会員の皆様方からの、企画参加、土地探し、資金の寄付5名(15万円)や貸付24名(4,500万円)、そして国・市の助成等々のご協力で、ここまで漕ぎ着けることが出来ました。

はみんなのため」の育成会精神に支えられていることを度々感じさせられました。

入居候補者も希望者24人の中から15人（男性8人、女性7人）を選考させていただきました。ただスタッフの数や力量などから、常時見守りを必要とする人を今回は見送らざるを得なかつたことは、育成会としてまた、24時間支援施設の制度として大き

現在、準備室では、毎水曜日の



12月25日 棟上の様子

工事会議や、入所利用者との打ち合わせ、スタッフの募集、事業所開設届の作成、運営・支援内容の固め、備品消耗品の買い揃えなどなど工事完成、開設に向けて作業をしています。

また、開設後の收支は、叩く電卓が示す数字は極めて厳しいものがあり、育成会をはじめ関係各位の支えを是非ともお願いたいしたいところです。

近々、会員の皆様には、不要な家庭用品の提供や運営へのボランティア応援などご協力をお願いいいたしたいと考えております。

また、開設後の収支は、叩く電卓が示す数字は極めて厳しいものがあり、育成会をはじめ関係各位の支えを是非ともお願いいたいところです。

近々会員の皆様には 不要な家庭用品の提供や運営へのボランティア応援などご協力をお願ひいたしたいと考えております。
宜しくお願ひ致します。

本人活動(本人会)とは、知的障がいのある人たち(以下「本人」と呼びます)の、本人のためのグループ活動です。グループ活動をとおして自分に自信を持つ、本人一人ひとりが仲間たちを理解し支え合う、自分たちと社会との関係を見つめ話し合う、自分たちの権利や自立のために社会に働きかけること等を目的としています。

本人部会準備會議報告

去る12月9日に、本人会準備会主催の忘年会を開催しました。どれくらい参加者が集まるか心配していましたが、本人19名と支援者等4名で計23名と会場は満員御礼となりました。会も大いに盛り上がり、飲んで、食べて、笑って親睦を深めることができました。

先日の準備会議で反省会を行いましたが、メンバーの感想として、「参加者から評判が良く成功してよかったです」「準備会議は出席できないけどイベントは参加したい」「本人部会に入りたいといってもらえた」「最後の会計でお金の計算が合ってよかったです」等がありました。メンバーは会のことを知ってもらえて今後の活動に手ごたえを感じているようです。メンバーと支援者で「次回は3月位にできればいいね…」と話しています。

また、メンバーの要望でスマートフォンやパソコン、インターネットの安全な使い方の勉強会の開催を計画しています。(飲み会ばかりではありません)契約のこと、安全な情報や危険な情報の見分け方について講師を呼んでみんなで学びたいと思います。詳細につきましては、毎月会員の皆さんにご案内(ピンク色のチラシ)を送付していますので、興味のある方はぜひ申し込みお願いします。もちろん、本人会準備会のメンバーも大募集していますので、参加をご希望の方は育成会事務局(713-1480)までご連絡ください。



保護者会だより

明けましておめでとうございます。

昨年も育成会保護者会の活動にご理解、ご協力を賜りまして誠に有り難うございました。

今年も育成会保護者会は、障がいのある人とその家族が、安全・安心で幸せに暮らせる社会の実現に向けて活動してまいります。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

昨年末の福岡市の障がい者週間記念の集いにおいて、当会は「障がいがあつても一人ひとりかけがえのない人生を生きている」ことを発信する写真とメッセージの展示会を開きました。

その際、当会会員に限らず、全国の手をつなぐ育成会の仲間や県内外から障がい種別も様々の方々や他団体の方のご協力のおかげで実現することができました。

また、福岡市に差別禁止条例をつくる会も40を超える団体が力を

明けましておめでとうございました。

昨年も育成会保護者会の活動にご理解、ご協力を賜りまして誠に有り難うございました。

今年も育成会保護者会は、障がいのある人とその家族が、安全・安心で幸せに暮らせる社会の実現に向けて活動してまいります。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

昨年末の福岡市の障がい者週間記念の集いにおいて、当会は「障がいがあつても一人ひとりかけがえのない人生を生きている」ことを発信する写真とメッセージの展示会を開きました。

その際、当会会員に限らず、全国の手をつなぐ育成会の仲間や県内外から障がい種別も様々の方々や他団体の方のご協力のおかげで実現することができました。

また、福岡市に差別禁止条例をつくる会も40を超える団体が力を

”手をつなぐ”実践を！

会長 下山 いわ子

を合わせて、私たちの願う条例案を作り上げました。

”手をつなぐ”ことで、ひとりの声を多くの声に変えることができます。

願う社会を実現するために、改めて、様々な方たちや団体のみなさんと協力連携をとれるようになります。

”手をつなぐ”実践を進めていきたいと思っています。

福岡市手をつなぐ育成会保護者会

福岡市手をつなぐ
育成会保護者会
TEL 713-1480
FAX 715-3561
e-mail
hogsha2@fuku.jp



障がい者週間記念の集い当日は、雨でしたが、テントの中は、あつたかな空気に包まれていました～



学習会予告(29年3月予定)

「教育現場の今」

(福岡市特別支援教育推進継続プランの進捗状況)

&

「福岡市発達教育センター所長との懇談」

福岡市の教育指針の方向を知り、「困っていること」「不安なこと」「疑問なこと」等々を発達教育センター所長に直接お尋ねできる機会です。

詳細が決まり次第、ホームページに載せます。
ぜひ、ご参加ください。



平成29年2/12、3/12
10:30~11:30 別府公民館
(駐車場は、ありません)
一種類の不思議な積み木で自由自在にあそびます★ぜひ、体験してみて！

★紹介★
げんいちろう先生の
遊んで学べる社交性
ワークショップ

変わります！

災害時要援護者台帳が (市政だより平成28年12月15日号で広報)

避難行動要支援者名簿に 改めて手続きが必要です

問い合わせ先：市民局 防災・危機管理課

TEL. 092-711-4966

FAX. 092-733-5906

1. 避難行動要支援者名簿とは

災害時の避難の際に手助けが必要な方が、日頃から高齢の方や障がいのある方の見守り活動をされている地域の方々に対して、ご自身の情報を提供することで、安否確認などの避難支援等に役立てるための名簿です。

2. 名簿登録の仕方

(1) 市から書類が届く→書類を提出

「避難行動要支援者名簿」のご案内や提出等が市から届く場合)

①在宅で、次の要件に該当する人

- ・要介護認定3以上
- ・身体障害者手帳1, 2級（心臓、じん臓機能障害のみで該当するものは除く）
- ・療育手帳A
- ・精神障害者保健福祉手帳1級

②現在の災害時要援護者台帳に登載されている人（登録している人も改めて同意確認が必要）

(2) 自己申告で 申請書類を提出

((1)以外で、災害時に自力での避難が困難であるために災害時避難支援等を希望する場合)

申請書の入手の仕方：市ホームページ（「福岡市 避難行動要支援者」で検索）

各区保健福祉センター窓口で配布

3. 名簿情報の提供：個人情報保護を十分に配慮

（避難支援等関係者が連携し、避難行動要支援者の安否確認や避難誘導などの地域ぐるみの支援に活用するために。災害時に円滑で迅速な支援を行うためには、日頃からの顔の見える関係作りが大切なために）

貸与先	名簿管理者	名簿の範囲
校区・自治協議会	会長	校区・地区
校区・地区社会福祉協議会	会長	校区・地区
民生委員・児童委員	各民生委員・児童委員	担当地区

4. 名簿提出のスケジュール

12月15日

市政だより掲載、市ホームページ掲示

12月15日～1月中旬

市から提出書類の発送

2月28日

書類提出締切…自己申告の方も同じです



★支援を受けるためには、
知ってもらうことが必要です。
ぜひ、登録しましょう！

早良ひまわりハウス開設準備室 からのお願い	問い合わせ先・育成会事務局 TEL: 092-713-1480 担当: 荒井・柴田・藤田
①家具や電化製品をご寄贈ください。 ご家庭で不用或いは眠っているソファやテーブル、イスなどの家具、ポットやミキサー、鍋(IH対応)等の厨房用具をご提供いただければ助かります。	②職員を募集しています。 世話人、支援員(昼間、夜間専門)を求めています。 お身内や知り合いの方にぜひ声を掛けただけませんか。

J-L-T-I-C

保護者・職員

育成会会員(保護者)、事業所職員によるリレートークは、テーマはフリーでそれぞれの立場での思いや考え方などあらゆる視点から法人に対する熱い思いを述べてもらいます。第8回目の保護者は尾造政代さん、職員は福岡ひまわりの里の吉富孝史さんです。

娘の成人式をむかえて

尾造 政代

平成8年に生を受け、苦労はありましたが関わって頂いた方々のおかげで娘は今年無事成人式を迎えることができました。娘は小学校6年生の頃から日中一時でひまわり園にお世話になっています。平成26年に入所し、現在は生活介護で楽しく作業を行っています。

福岡市の成人式から遅れること五日、園で成人式を行つて頂き、職員の方々はスースに着替え、自治会長までお越しいただき、それは本当に娘ひとりのために心のこもつたものでした。たくさんのお祝いの言葉、品、そして園の全員の方々からの歌のプレゼントにて娘も感極まり涙していました。子供の頃から娘の成長を見守つてくださつていた職員の方々、利用者と保護者、地域の方々に祝つて方だと改めて感じました。幸せ一杯のこの日を親子共々一生忘れないと改めて感じました。

今年の4月に障害者差別解消法が施行されました。この福岡市育成会だよりの149号にも詳しく掲載されていますし、色々なところで目にします。

私たち職員も法人研修の一環として繰り返し研修を重ねています。私が普段、支援を行つうえで一番難しく感じているのは誤解による偏見や合理的配慮についてです。白杖を持つた人=目が見えない方。そんな誤解から、白杖を持つた方が携帯を扱つているのを見て「見えるじゃん。」と。そのこえにものすごいショックで、人前で携帯を触れなくなつた方がいます。

弱視の方も白杖を持つていてるという認知がなかつたのです。知つていればこんな発言はなかつた筈です。

ご本人のことを考え、必要な支援を行つてく。文章では当たり前のことに書けますがこれが一番難しいもので、まずは相手を知ることから始まります。「心と心をつなぐ」、「より良い生活、豊かな生活」、「わけ隔てない申しあげます。娘の笑顔がいつまでも続きますように。

知ること

吉富 孝史

目を疑う児童や障がい者の虐待などに関するニュースが飛び込んできます。その度にまたか。と悲痛な気持ちになります。得も言われぬ気持ちに襲われ胸が痛くなるためニュースを直視できないこともあります。

ピック」の意味をもたせ、parallel(平行の)+Olympicsというもので、4年に1回オリンピック開催地で行われる「障害者スポーツ最高峰の大会」とのこと。今はオリンピックとは別のですが、いつか一緒にならないかな。まずは、開会式と閉会式の合同開催かな。

話しは変わりますが、先のリオオリンピックで特に感じたことはパラリンピックについてです。過去のオリンピックに比べ放送時間が表彰に対する内容などが随分と増えたと感じました。とても素晴らしいことです。パラリンピックとは、「もう一つのオリンピック」というもので、4年に1回オリンピック開催地で行われる「障害者スポーツ最高峰の大会」とのこと。今はオリンピックとは別ですが、いつか一緒にならないかな。まずは、開会式と閉会式の合同開催かな。

職員人事

●退職者

ひまわり園

末永 美香

福岡ひまわりの里
脇山 裕貴

●採用者

ひまわりパーク六本松

田部 京子

ひまわり園
田中 泰之